

オバンド町：踊りの伝説

文章：ロムロ・デロス・レイエス(Romulo delos Reyes)

和訳：エリック・デ・グズマン(Eric de Guzman)

<http://www.geocities.com/obando81>

毎年、5月の中旬ごろ、竹の音楽家たちが自分の楽器に空気を吹きながら、アンティークなフィリピンの衣服を着ている老人と老婆は絶え間なく踊ったり、道で互いをからかったりしています。みんなは聖パスクアル、聖クララとサランバウの乙女マリアの車の後ろに踊っています。「Santa Clarang Pinung-Pino (フィリピン語：とても美しい聖クララ)」という曲がどこでも聞こえます。ほとんどの巡礼者たちはパンパンガ(Pampanga)とヌエバ・エシハ(Nueva Ecija)というブラカン州(Bulacan)の周りにあるところから来た方々です。ロザリオと連祷に祈っています。ほとんどのみんなは子供か、配偶者か、よい営業を望んでいます。ある人たちが毎年、永久な献身として、踊ることにしています。例えば、聖パスクアル村とフロ村女性団体の会員が毎年のお祭り日に踊ることのは生涯委任です。聖パスクアル村のアダングさんに娘さんを与えました。そういうわけで、聖クララを尊敬するために、毎年踊ることにしています。パリワス村のスイマさんは踊っているうちに、休まないのに、とても健康で強くなると感じます。お祭り日の9日間前から毎日祈る夫婦たちもいます。当日に聖パスクアルの車の後ろで一所懸命踊っています。

これはオバンド町の魅力です。何千人もの人々がオバンド町に行って、お祭りを祝ったり、聖クレアに子供を求めのために踊ったりしています。踊りはお祈りに変わりました。ファンダンゴという踊りは足、手や腰の組み合わせた動きです。命の精神が胎児に入るためにそのような動きをします。

お祭りは三日間祝っています。5月17日は聖パスクアルの日で、5月18日は聖クララの日で、5月19日はサランバウの乙女マリアの日です。

数年中に、オバンド町の肥沃踊りはとても強くてしっかりした基礎を持っていることが考えられます。フィリピンのスペインの植民地化の前にオバンド町の文化がどのように上達したかをこのことから答えられるようになります。

そういえば、オバンド町はこの肥沃踊りの習慣のため有名になりましたかは何故ですか。この小さな町はどの辺にありますか。この町はどんな歴史を持っていますか。

序文

オバンド町は 1753 年 5 月 14 日に確立されて、現職の知事、ドン・ホセ・フランシスコ・ソリス・デ・オバンド(Don Jose Francisco Solis de Obando)にちなんで名付けられました。設立の法は 1 年後、1754 年に制定されました。

その前に、16 世紀に、オバンド町はメイカワヤン(Meycauayan)という町のただの部分でした。カタンガラン(Catangalan)と呼んで、タンガル(tangal)という木で名付けられました。タンガルはここに沼沢地の地域で繁茂する一種の木です。クトッド(kutod)という魚釣に使用されるものと漁師のネットのためにタンガルの皮膚の抽出をダンポール(dampol)にしました。

1588 年に、カタンガランは地域の人々のドン・フェリペ・アルマンランガギ(Don Felipe Armanlangangui)の監視でのエンコミエンダ(encomienda)というスペイン政府の不動産管理方法であると申告されました。その時、カタンガランに 800 人くらいの人々が住んでいて、農業と魚釣に活躍していました。

そして、ボルネオ(Borneo)のモロ族と共にスペインの政府に反対したので、アルマンランガギは投獄されました。アルマンランガギのすべての富はスペイン王の財産になって、全国の軍事政権のために使われました。

つづく

(しばらくお待ちください。)